

安心で住みよい町に！

議会だより

からうら

No. 68

2014. 4. 30発行

元気いっぱい！

魅力ある町に

2▶4

新モニター決まる

5

町政に切り込む 一般質問

6▶14

今やるべきことは 防災シリーズ

15

地域に密着したボランティア

ライオンスクラブ

16

『農業・交流・定住』で魅力あるまちづくり

平成26年度予算を決定！



「ひな会議」は3月4日、7日、17日、20日まで開かれ、25年度の補正予算では、「大井げき用水」や地区集会所の空調設備の改修工事が提案されました。

26年度当初予算では、若者定住策としての賃貸住宅建設と家賃補助、農業振興の充実、鳥獣害対策費、住宅の耐震対策費の大幅増や、交響楽団によるコンサートの実施などを審議し、議案は全て原案通り可決しました。

「国保税引き下げと制度改善を求める請願」が提出されましたが否決されました。

一般質問は8議員が、3期目を迎えた町長の姿勢などを問いました。

若者定住



賃貸住宅、家賃に補助し
定住促進を図る

農業振興



貯蔵みかんの
ブランド化を



個体数を減らせ
捕獲報奨金を増額

主な事業

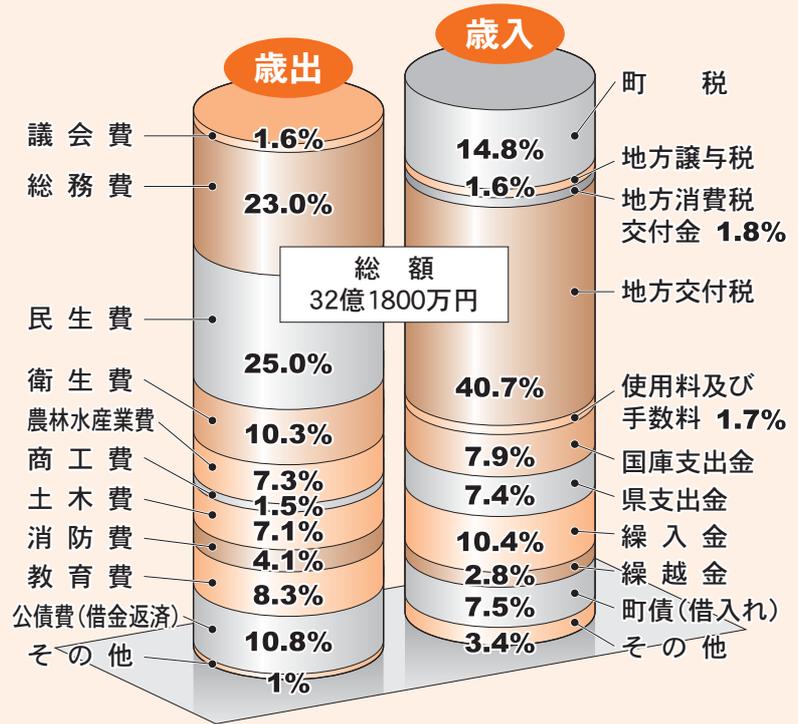
特別会計予算

国民健康保険	8億124万円
勝浦病院	6億3933万円
介護保険	7億6295万円
後期高齢者医療	8666万円
簡易水道	2億8222万円
農業集落排水事業	8403万円
物産販売	1651万円
住宅新築資金等貸付	69万円

特別会計とは

一般会計とは別に、それぞれの目的を持って事業を行う会計である。

一般会計当初予算の歳入・歳出構成比



防災



消防詰所を建て替え

交流事業



空き家を活用し、交流人口を増やそう

文化



感動を呼ぶオーケストラの演奏

子育て



「子ども・子育て会議」で支援策の計画を

安全



長寿化計画に沿って改修し通行の安全を図る



議案に対し質疑

美馬議員 軽四の患者輸送車を購入するとあるが、納車時期と運用体制は。

伊丹企画総務課長 改造の必要があり、納車は年末の予定。運用は、

人員体制はそのままで、狭い場所には現在ある大型車と2台で出動し、軽四で運び大型車で搬送する。



河野議員 木造住宅の耐震診断、改修工事の予算が大幅にアップされているが、希望者が多く予算をオーバーすればどうするのか。

柳沢建設課長 予算が不足する場合は国、県に要望する。

川端議員 農地転用の許可は、農業委員会です。毎年3月に1回されるだけだが、必要に応じて審議できないのか。

野上産業交流課長 農業振興地域に含まれる農地転用には、県の同意が必要なのですぐには難しい。

井出議員 保健予防活動として、国保で人間ドッグへの補助をすべきでは。

前田税務課長 特定検診に、頸部と腹部エコーがあるので、がん検診と合わせて受診してもらいたい。

森本議員 一昨年の保険税値上げにより、滞納者の数に変化はあるのか。

前田税務課長 納税相談をきめ細かく行っているのですが、変化はない。

国清議員 星谷、棚野地区の防火水槽の着工予定は。

伊丹企画総務課長 用地確保ができていますので、早く着工したい。



防火水槽予定地（星谷）

請願提案

今会議の冒頭に、1125名の署名を添えて「国保税引き下げと制度改善を求める請願」が提案された。

紹介議員 森本 守
井出 美智子

趣旨

国民健康保険は命と健康を守る土台となっています。

勝浦町の国保会計は、他の市町村と比較しても多額の基金や繰越金があり安定した運営がされています。

しかし、厳しい不況と経営難や失業、さらに消費税が引き上げられる中で国保税は大きな負担となっているので、引き下げと制度改善を要望します。

否決

20日に審議され賛成、反対討論があり採決の結果、賛成2 反対6で否決された。

賛成議員 森本、井出

反対議員

美馬、麻植、河野、節、川清、国端

請願とは

町民の要望を議会に提出する事で、一名以上の議員の紹介が必要です。

副町長の選任に同意

小林功前副町長の退任により、副町長の選任が提案され全会一致で同意しました。

福田輝記氏（51歳）



人権擁護委員

内谷信喜氏

（坂本）

推せんに同意しました。

1月会議

保育園児20人増に対応

1月28日に開会し、一般会計補正予算の審議を行い、原案通り可決した。

補正予算

3731万円の主なもの

・保育所運営費

1843万円

・子育て支援システム費

980万円

・地籍調査費

729万円



お友だちがいっぱい

質問

節議員 保育園の入園児が増えたが、保育士の確保に問題は無いのか。

大西福祉課長

保育士は確保できている。

川端議員 子育て支援システム改修費は、国の制度変

更によるものなので、全額国費にできないのか。

大西福祉課長

要望の結果、補助率が50%から70%上がった。

2月会議

通行止め、いつまでか

2月8日に開会し、町道「横瀬・与川内線」改良工事など、工事費の変更4件を審議し可決した。

質問

山野議員 町道「横瀬・与川内線」は、通行止めが続いているが、工事の進捗率と完了予定は。

柳沢建設課長 現在、80%

程度完了しており、3月末には完了する。



改良工事中の「横瀬・与川内線」

新モニター決まる 26年度

新 居 真佐子 (坂 本)
相 原 喜久男 (中 山)
米 澤 美 保 (久 国)
麻 植 満理子 (中 角)
西 谷 幸 子 (今 山)

宮 本 勝 恵 (与川内)
溝 内 由 大 (横 瀬)
小 西 孝 孝 (生 名)
寺 尾 貴 志 (星 谷)
上白川 敏 明 (山 田)

(敬称略)



こんな記事のせてよ!!

- 議会で何が問題になっているのか
- 「通年会期制」の議会運営の効果は何か
- ホームページで議会開催の案内をすべき
- ボランティア活動の紹介を続けてほしい
- 議員提出議案は簡単な主旨説明をつけてほしい
- 勝浦町の魅力のあるところを連載して

モニターの意見・提案

- これからは電子メディアの時代、フェイスブックの活用も
- 記事の内容がキーワードで分かるように
- 見やすい字体の工夫を
- 町民の小さな声も拾い上げて欲しい
- 「一般質問を傍聴してみたい」と思っている人はたくさんいるはず。ホームページをもっと活用すべきでは
- 現状を発信して、住民から問題や課題または、方向を提言できるようにすれば
- 開会日や質問内容の情報が早く欲しい

一般質問

議員が町の執行部に対して、さまざまな角度から町政について質問すること

町の課題に切り込む！

質問議員	質問事項	ページ
河野道雄	1. 住宅の耐震化さらに補助金の増額を 2. 危険な空き家撤去を 3. 地籍調査を急げ 4. 橋やトンネルの点検は町で	7
山野忠男	1. 鳥獣害対策、抜本的な取り組みを 2. 防災、減災 3. 東部地域定住自立圏構想、共生ビジョンについて	8
国清一治	1. 県道新浜勝浦線、「中山工区」工事再開を 2. 中身が一番、みかんブランド化 3. 沼江バイパス3期工事、残土処理場は	9
森本守	1. 国の消費税8%対策、低所得者への給付措置は 2. ピロリ菌撲滅大作戦	10
美馬友子	1. 2025年問題、対応に専門職を 2. 定住促進を図るために 3. どうする、「横瀬橋東側」	11
節公一	1. 「横瀬橋東側」の改良は 2. みかんのブランド化、推進体制の構築を急げ	12
井出美智子	1. 防犯灯の設置を 2. 国保税の引き下げと制度改善を 3. 廃油石鹸作りに補助を	13
川端雅夫	1. 問題はないのか院外処方 2. 太陽光発電に町補助金を 3. 移住交流支援事業、空き家の利用は	14

次の会議予定日は5月30日、6月24日です。

住宅の耐震化

さらに補助金の増額を

まずは耐震診断を（町長）

河野道雄 議員



問 南海トラフ巨大地震の被害想定によると、勝浦町の建物の被害は、全壊・半壊合わせて1140戸。死者20〜30人。負傷者140〜190人。町民の生命と財産を守るためには、住宅の耐震改修が重要だ。現在の耐震改修の成果は。

答 柳沢建設課長

昭和56年以前の木造住宅1060戸の内、平成17年

からの9年間で耐震診断は152戸。耐震改修が必要なのは132戸で、その内11戸が改修されている。

問 耐震改修補助額を60万円から90万円に増額しているが、高齢化が進む中、町長の英断でさらに補助を増額してはどうか。

答 中田町長

町は26年度から耐震診断を無料にし補助金を増額した。少しでも多くの方に診断をしてもらいたい。

危険な空き家撤去を

問 新規事業として「老朽危険空き家除去支援事業」が始まるが、補助制度の中身はどのようなものか。

答 柳沢建設課長
災害時の避難路の支障となる空き家で、

撤去費用は1戸当たり5分の4の補助（上限80万円）である。

問 どのような条件で適用されるのか。

答 柳沢建設課長
国が定める住宅の不良度の測定基準において、評点

が100点以上が対象となる。

地籍調査を急げ

問 地籍調査を進めているが、高齢化で民家周辺でも土地の境界立会が難しくなっている。現行の職員体制とは別に、民家周辺を同時に調査できないか。

答 柳沢建設課長

現在は中山地区の調査をしており、29年度から坂本地区を予定している。調査は現行通り、地区単位で行いたい。



危険な空き家

橋やトンネルの点検は

問 国は、山梨県の「笹子トンネル崩落事故」を受け、橋やトンネルなどの総点検に乗り出したが、町の対応は。

答 柳沢建設課長

国や県の動向を見ながら対応したい。

鳥獣害対策

抜本的な取り組みを

助成を増やす（町長）

山野忠男 議員



問 ワナを含む猟師の人数と年間の捕獲頭数は。

答 山野上産業交流課長

銃器免許取得者は37名、ワナの免許取得者は54名である。

年間捕獲頭数はイノシシ77頭、シカ211頭、サル26頭である。

問 県の鳥獣害対策は。

答 山野上産業交流課長

国、県の補助で広範な地域を囲う防護柵がある。また、捕獲した鳥獣の肉を利用する「阿波ジビエ料理」の推進がある。

問 抜本的な鳥獣害対策の取り組みを。

答 中田町長

新年度に報奨費や狩猟免許取得、狩猟更新経費への助成を増やしたい。

防災・減災

問 南海トラフ巨大地震で正木ダムの崩壊のおそれ。

答 伊丹企画総務課長

正木ダムは巨大地震にも耐えられる構造で、崩壊の想定はしていない。

問 自主防災組織連絡協議会の実態は。

答 伊丹企画総務課長

連絡協議会は、21年4月に県下で初めて結成され、先進地視察や研修、年一回の総会を行っている。

問 年一回の防災訓練について毎年テーマを変えてはどうか。

答 松本病院事務局長
25年までに、市民病院の看護師を講師として研修会

問 定住自立圏構想の医療分野での取り組みは。

東部地域定住自立圏構想 共生ビジョンについて

答 伊丹企画総務課長
テーマを決めて訓練したい。



大事な初期消火訓練（星谷）

問 病児・病後児ケアの内容は。

答 大西福祉課長

10歳未満の子どもが病気の時、保護者が就労している場合に一時的に預かる制度である。

圏内の指定された施設で預けることができる。

問 観光開発の取り組みで、市町村連絡協議会の負担金は。

答 山野上産業交流課長

負担金は、徳島市が730万で、11市町村は各70万である。

問 圏域内外を結ぶ主要道路「徳島上那賀線」の改良は。

答 柳沢建設課長

飯谷町の青葉荘東側125メートルの拡幅工事を発注している。

飯谷小学校前の鉄柱の所は、25年度にボウリング調査も終わり、今後本設計にかかる。



県道新浜勝浦線

「中山工区」工事再開を

早期に着工（町長）

問 県道新浜勝浦線「中山工区」の工事が、長年中断したままとなっている。用地交渉を含めどのように進んでいるのか。

答 柳沢建設課長

用地関係者の了解を得、拡幅予定の100m間の設計をしている。買収面積、補償物件の調査も行っており、交渉成立後、工事を発注したい。

問 町長として、県道新浜勝浦線の考えは。

答 中田町長

用地交渉、予算確保をスピードアップし、「中山工区」を早期に着工、終了して「星谷工区」に着手したい。

中身が一番 みかんブランド化

問 2月7日に、みかんブランド化を中心とした「みかん活性化シンポジウム」が開催されたが、その成果は。

答 野上産業交流課長

みかんの販売ルートと合わせた「ブランド化戦略」や販路の拡大、生産者がブランドを持つ必要性などを聞き、今後の推進に役立てたい。

問 統一ダンボール先行のブランド化は、正しかったのか。

答 野上産業交流課長

みかんの販売体制の統一化や、一定量確保の必要性から、統一ダンボールは第一歩である。



やっと工事が再開される（中山）

問 ブランド化は中身の統一、基準が一番である。今後の取り組みは。

答 野上産業交流課長

1月に創設した「勝浦みかん生産販売促進協議会」において、まとまった量の高品質みかん生産に向けて協議を進めたい。

沼江バイパス3期工事

残土処理場は

問 「沼江バイパス3期工事がどうなっているのか」と地元で心配する声を聞くが、町単の「残土処理場工事」はどう進んでいるのか。

答 柳沢建設課長

バイパス工事で、大量に出る残土を処理する「残土処理場」を沼江に2カ所計画しており、町の用地測量は完了し、新年度の県の調査をみて「盛り土計画」を立てたい。

問 沼江バイパスの関係で、日亜化学の社長との面会は。また、県に対する対応は。

答 中田町長

昨年の9月に日亜化学を訪れ、総務部長と会い支援をお願いした。

県に対しては、引き続き3期工事の早期着工を強く要望する。

その他の質問

○安全・安心「万全を期するため」

国の消費税8%対策

低所得者への給付措置は

給付は8月ころ (福祉課長)

森本 守議員



問 「臨時福祉給付金」、「子育て世帯臨時特例給付金」制度の対象者は。

答 大西福祉課長

「臨時福祉給付金」は、26年度の住民税非課税及び住民税が課税されている人の扶養になつていない人で、生活保護制度を利用していない人に対し1万円が給付される。

また昨年10月から減額に

なつた年金や児童扶養手当などを受けている人には、5000円が加算される。

「子育て世帯臨時特例給付金」の支給対象は、26年1月分の児童手当（特例分を含む）の対象となる児童で、「臨時福祉給付金」が支給される人や生活保護世帯は対象外となる。

両給付金とも26年1月1日現在、勝浦町に住民登録している方で支給は一回限りである。

問 いつごろ給付されるのか。

また、住民への説明は。

答 大西福祉課長

7月初旬に申請の受付を

ピロリ菌撲滅大作戦

開始し、確認作業に1カ月から1カ半月が必要で、給付は8月ころになる。
住民への説明は広報で周知し、受給は対象者が申請するのが基本となる。

問 町長は、所信表明で「安心して暮らすことのできる町づくりは、町の大きな使命であると考え」と述べている。

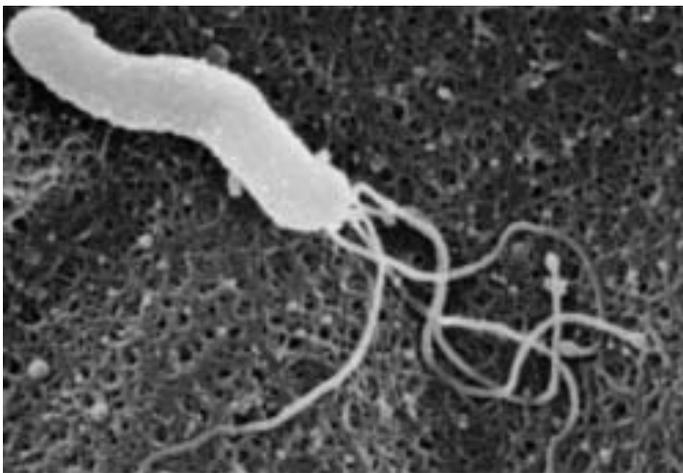
そこで胃潰瘍、十二指腸潰瘍は、

ピロリ菌に感染していない人は6・8%の再発率だが、感染している人では90%と非常再発率が高い。

また、感染している人の3%が胃がんになり、胃がん患者の99%がピロリ菌に

感染している。消化器系以外の病気でもピロリ菌の関連が疑われている。
町民の健康増進と、医療費の抑制を目標に「勝浦町ピロリ菌撲滅大作戦」で検査と除去に助成をしては。

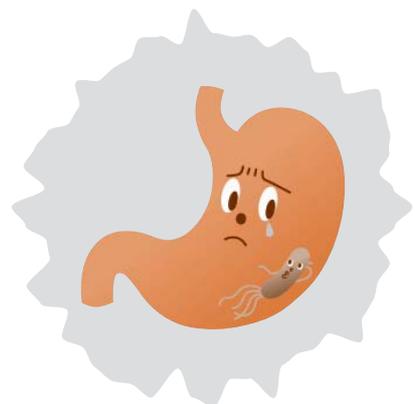
答 中田町長
病気の重症化を防ぐためにも検査を受けて欲しいが、公費ですべて負担するには難しい。



住みつくと、やっかいなピロリ菌

ピロリ菌とは

胃の中に好んで住みつき、胃の壁を傷つける細菌。日本人の約50%以上がピロリ菌に感染していると言われている。胃腸の病気を発症している人が、ピロリ菌に感染している確率が高いため、除菌が望ましいとされている。治療薬で除菌できるが、ピロリ菌に定住されると、自然治癒することが難しい。



美馬友子議員



2025年問題

対応に専門職を

現状では難しい (町長)

問 11年後には団塊の世代が75歳以上になる「2025年問題」がおきるが、勝浦町で予測される問題は、

答 中田町長

高齢者比率が41・2%とピークを迎える。施設入所待機者や在宅支援の強化に取り組み、給付費の削減のために介護予防にも力を入りたい。

問 介護担当者は、多様なニーズに的確に対応できる専門職が必要では。

答 中田町長

一人の職員が仕事をかけもちしている現状では、介護の専門職を置くことはできない。

問 町内で、認知症サポートが233人に増えている。役場職員も講座を受け、住民サービスにつなげては、

答 大西福祉課長

現在7名が受講し、サポートとして「オレンジリング」を所有している。職

員に対し認知症の講習はしていない。

問 シルバー人材センターが行っている「地域安心サポート事業」の利用状況は、

答 大西福祉課長

11月から始まったばかりで15件の利用があり、エアコンの掃除、庭の手入れ、布団干し、買い物などの要望があった。

定住促進を図るために

問 勝浦町の25年度出生者は25人と少なく、今後の出生数を増やすためにも保育料の減額をしては、

答 中田町長

保護者の負担軽減にはなるが、「子ども・子育て会議」で協議したい。

問 ケーブルテレビの新規加入者に補助はできないか。

答 伊丹企画総務課長

17年に整備し補助制度を設けたが、その後の加入には補助をしないと決めている。

28年に更新となるので、その時に今後の運用や新規加入者に対する補助制度など契約を見直していきたい。

どうする、県道「横瀬橋東側」

問 横瀬橋東側の未改良区間の整備はどうなっているのか。

答 中田町長

通学路でもあり、交通量も多く非常に危険な箇所で、県も重要な改良箇所として位置づけており、今後も要望を続けていく。



いつまでも元気でいてな！ (イキイキ元気教室)

中田町政3期目

「横瀬橋東側」の改良は

県に強く要望する（町長）

部 公一 議員



問 町長は今回、立候補するにあたり「3期目の主張」と題して、8項目の重点課題をあげているが、横瀬橋東側の改良は、交通安全上、以前から多くの町民から強く望まれている。

町長の任期中に、ぜひ道筋を付けてもらいたい。

県として、横瀬橋架け替え当時の計画はどうなっているのか。

答 小林副町長
現在は、白紙に戻った状態である。



広がれ!! 危険な急カーブ（棚野）

問 新しいルート設計をするのに、どのくらいの期間が必要か。

答 柳沢建設課長
対象を250メートルの区間とすると、1年から2年くらいかかる。

問 現在、進めている中角工区の歩道整備が2年くらいで完了予定と聞かすが、そ

の後、この工区にかかるには、すぐにでも設計図を作成する必要がある。県に要望すべきでは。

答 中田町長
私が先頭に立って、県会議員と共に県に強く要望していく。

みかんのブランド化

推進体制の構築を急げ

問 ブランド化とは「品質保証をし、消費者に満足感を与えるもの」であるが、ブランド化の対象は。

また、体制づくりができていないが、主体的に推進していく組織はどこか。

答 中田町長
ブランド化は貯蔵みかんである。

推進は、今年1月に発足した「勝浦みかん生産販売促進協議会」が主体となる。

問 品質基準の決定や判定、検証はどの組織が行うのか。そして権限はどうするのか。

答 中田町長
品質基準については、県の農業普及員および営農指導員などで検討し、市場関係者の意見も聞き協議会の中で決定していく。

品質検査などに必要な機械、設備については関係機関の助言を参考にして整備していきたい。

権限についても協議会の中で議論を行い、決めていく予定である。

■その他の質問

- 若者定住対策の新しい展開は
- 消防常備化を急げ





井出美智子議員

防犯灯の設置を 危険な所には設置する(企画総務課長)

問 以前はついていた防犯灯が外されていることで、転落事故等が起こり、負傷者が増えている。状況把握はできているのか。
また、安全強化のために、設置の見直しと拡充が必要ではないか。

答 伊丹企画総務課長
事故やけがの報告は、受けていない。
防犯灯の数は増やさないと決めた経緯があり、設置場所を変更することで対応している。

問 「電源立地交付金活用事業」でLED化を図り、削減されたコストはいくらか。
新年度に区長会で要望を聞き、安心安全を強化するべきではないか。

答 伊丹企画総務課長
LED化で月に2万5千円程度の削減。最低限危険な所には設置をしていく。

答 中田町長
区長会で要望を聞くなどして、対応したい。

国保税の引き下げ と制度改善を

問 不況や年金の引き下げ、消費税増税と町民の生活は、ますます厳しくなっており、今会議に提出された「請願」では1225名の署名が集まった。

答 中田町長
こんな時だからこそ、国保会計の基金と繰越金(1世帯当たり46万円)を有効に使用して、計画的に国保税の引き下げや制度改善を行い、町民に還元すべきではないか。

問 静岡県伊豆市役所では、申請による減免の方法をホームページで詳しく載せている。納められる国保税にすべきでは。

答 中田町長
町では納税相談を行っているので、相談にきて欲しい。

答 中田町長
町では納税相談を行っているので、相談にきて欲しい。

廃油石けん 作りに支援を

問 生活排水汚染防止の方法として、廃油を活用した石けん作りに、必要な材料の苛性ソーダを無料で支給したり、ステンレス製容器を貸し

出すなどの支援をしてはどうか。

答 岩佐住民課長
苛性ソーダは劇薬であり、取り扱いが難しい。行政が対応するには、慎重を要する。



自然にやさしい石けん作り

問題はないのか

院外処方

薬価代は高くなる（勝浦病院事務局長）

川端雅夫 議員



問 4月1日から勝浦病院では院外処方が始まるが、少し病院から離れており、坂もある。足腰の弱いお年寄りにとって、つらいと思うが、対策を考えているのか。

答 松本病院事務局長

病院では手押し車を常備しているの、薬局に行くのに利用していただきたい。

問 薬価代はどれくらい高くなるのか。

答 松本病院事務局長

一種類の薬を30日分処方すると、1割負担で160円、3割負担で490円高くなる。



不便になるのでは？院外処方

太陽光発電に町補助金を

問 4月から太陽光発電の国の補助金がなくなるが、1戸当たり5KWの設備をすると200万円くらいかかる。町として補助金を出し、自然エネルギー推進に取り組み考えは。

答 中田町長

現在、売電価格が下がる傾向にあるが、国の重要政策であり、自然エネルギー推進に町として取り組んでいきたい。

問 国府町では、4人のグループで4haの土地に1400枚のパネルを張って太陽光発電に取り組み、その下をトラクターが通り野菜などを栽培している。町も休耕地を利用して、太陽光発電に補助金を出すなど取り組んではどうか。

答 中田町長

休耕地の活用は、農地の高度利用になるが、町としては農業生産を主にしていきたい。

移住交流支援事業

空き家の利用は

問 集落活性化に向け、空き家を活用する事業に取り組む計画だが、その内容は。また、空き家はあっても貸してくれる家は少ない。新年度で何戸実施できるのか。

答 野上産業交流課長

空き家情報をホームページに載せているが、県外からの移住の要望が増えているので、新年度からモデル的に「移住交流支援事業」に取り組む。

空き家は町で借り受け再生し、町内での生活体験や農業体験ができる施設にしたい。新年度の実施の計画は1戸である。



今やるべきことは 被害を最小限に

「南海トラフ地震」の被害想定を受けて、「勝浦町地域防災計画」が4年ぶりに見直された。議会において、2月24日と3月7日に「防災特別委員会」を開き、町担当者から計画の説明を受け、協議し一部修正を加え、3月27日に開催された「勝浦町防災会議」に諮り決定された。

この計画は、災害対策基本法の定めにより、国・県・市町村に計画が義務付けられているもので、基本的な考えは、勝浦町の地域に係る行政や消防関係機関の、防災・減災の指針を示したものである。

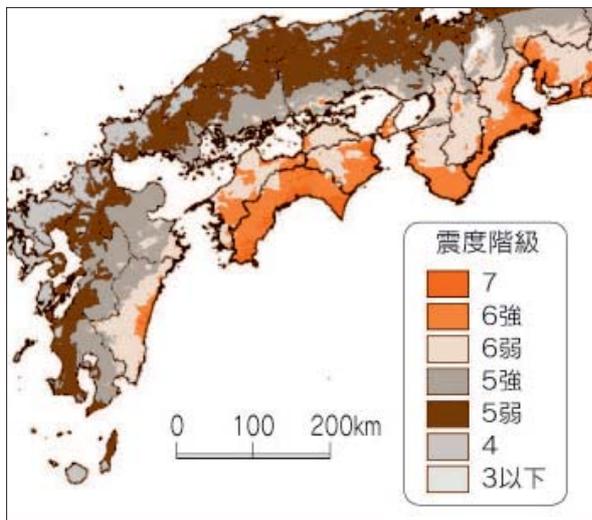
必要不可欠

① 各地区で防災計画づくりを

「地域防災計画」は、広く各地区の町民の声を聞いたものにはなっていない。

想定外に発生している大災害や、30年以内に60%の確率で起きると言われている「南海トラフ地震」を思うと、町内各地区における地理的条件の違いや、大災害の要因、被害を想定した「〇〇地区防災計画」の策定は必要不可欠である。

ひな会議においても議員の質問が相次ぎ、町は「マニュアルを示す」と答えており、今後、各区、自主防災組織と連携した計画策定が急がれる。



南海トラフ地震 震度予想

万全を期するために

② 住宅の耐震診断、無料に

県が昨年7月に出した南海トラフ巨大地震による勝浦町の被害想定は、最悪で死者30人、負傷者190人。建物全壊は420棟、建物半壊760棟など驚くべき数字である。

町では新年度の予算で、住宅の耐震診断を無料化し、耐震改修、住まいのリフォームに対する町補助金を、県下に先駆け大幅な増額を打ち出しているの、町民に周知を徹底し理解を求め、「命を守る住宅耐震化」を進める必要がある。

命を守る

③ 実戦的な防災訓練を

町では19年から、毎年9月の第一日曜日を「一斉防災訓練の日」として、避難訓練を中心に7年間実施してきたが、これからの防災訓練は、あらゆる災害を想定し、曜日や時間を特定せず、行政、町民、企業などが一体的に連携した実戦的な訓練に見直して行かなければ、被害を最小限に防ぐことはできない。



こうなったら大変！

美しい・町のボランティア

シリーズ⑤

「we serve (私たちは奉仕する)」

阿波勝浦ライオンズクラブ

ライオンズクラブは世界的な奉仕活動クラブで、徳島県にも30クラブがあります。

阿波勝浦ライオンズクラブは、現在、27名の会員が在籍し、地域に密着した活動をしています。

主な内容は、学校の庭木手入れ、カーブミラーの清掃、献血の手伝いなどを行っています。

特に、青少年の育成には力を入れており、スポーツ少年団の後援や中学校のしめ縄づくり体験なども実施しています。

奉仕活動に意欲のある方の入会を待っています。



会長
呑口 順治さん



「難しいなあ」しめ縄づくり

表紙写真
元気いっぱい新入生の通学



編集後記

消費税が8%にアップ。あらゆるものが、値上げされ、暮らしを直撃している。

なかでも低所得者層は、最も影響を受けているが、政府は、広報に「社会保障に全て使う」と12億6千万円もの税金を使って、盛んに宣伝をしている。

しかし、物価は上がり、介護保険は上がり、医療費も上がる。一方で年金は下がる。低賃金で子供を産むことさえためらうてしまつて、「言っていることと違うー」と、憤りすら覚える。来年10月の10%への直行を許さないためにも、地方からの声をしっかりと上げていきたい。

(みちこ)

